

愛護センターだより

発行:敦賀市少年愛護センター

住所:敦賀市東洋町1番1号

電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』都市:敦賀市

16歳から青切符！

毎日のように交通事故のニュースを見聞きし、どうにかならないものかと暗澹たる思いに駆られますが、それでも警察庁の発表によると全国の交通事故の発生件数は年々減少しているそうです。その一方で令和4年に自転車に関係する交通事故は全国で6万9985件、2年連続で増加だとか。また、全国で起きた自転車に関係する死亡・重傷事故7107件のうち73.2%にあたる5201件で自転車側に前方不注意や信号無視、一時不停止などの交通違反が確認されているそうです。さらに、自転車が加害者となる「歩行者との事故」は令和4年に2905件あり、2年続けて増加。これらのことから、5月17日に改正道路交通法が国会で可決・成立し、青切符制度は2年後に施行となります。対象年齢は、原付き免許などを取得でき、電動キックボードを運転できる年齢であること等を理由に16歳以上。高校生は自転車の安全運転の意識を今一度改める必要があります。

「青切符」による取締りは、100余りの違反が対象となりますようですが、特に『信号無視』『一時不停止』『携帯電話を使用しながらの運転』など重大な事故につながるおそれのある違反を重点的に取り締まる方針のようです。気になる反則金は5000円

- ▼信号無視 ▼一時不停止
- ▼右側通行などの通行区分違反
- ▼自転車の通行が禁止されている場所を通ること
- ▼例外的に歩道を通行できる場合でも徐行などをしないこと
- ▼ブレーキが利かない自転車に乗ること
- ▼携帯電話を使いながら運転すること
- ▼傘を差したりイヤホンを付けたりしながら運転するなど都道府県の公安委員会で定められた順守事項に違反すること 等

～1万2000円程度を想定、高校生にとっては大金です。自分の命を守るためにも安全運転厳守です。

また、警察庁は自転車での酒気帯び運転とスマートフォンなどを使用した「ながら運転」については、罰則付きで違反とする時期を11月1日にする方針を6月27日に発表しています。反則金の有無ではなく、命を守るための行動は待ったなしです。これを機会に、ご家庭で自転車の安全運転について今一度話し合う時間を持ちましょう。その際には、努力義務であるヘルメット着用についても、もしものことが起こってから「ヘルメットを被っていれば…」と悔やむことのないように、お子さんへの言葉かけもお願いします。



外勉

補導日誌には、オルパークやちえなみきで勉強をする高校生の様子がよく記載されています。電車待ちの時間を有効に使うと、教科書やノートを開いて勉強している姿は見ていて微笑ましく、応援したくなる感じのようです。こうしたオルパークやちえなみき、ショッピングセンターのフードコート等の場所で勉強することを「外勉」というそうです。

さて、その「外勉」は勉強場所としてどうなのでしょう。

家であれば…「外勉」に対して「家勉」というそうです…参考書やノートなど勉強に必要なものがすぐに準備できるし、思い立った時にすぐに取り組めるし、いろいろと楽です。しかし、それは同時に、すぐに寝転がれるし、漫画やスマホがすぐ手に取れるし、誘惑もいっぱい「最もサボってしまいやすい場所」でもあります。

ちなみに、家で勉強する場合は「リビング」が良いそうで、適度な「衆人環視」と「雑音」があるからだとか。誰も見ていないと、ついつい怠け心がでてしまいがちですが、リビングでは家族の誰かが見ていることが多く、適度な緊張感を持って勉強することができます。また、人間は完全な無音よりも、少し雑音があった方が集中しやすいと言われていて、家族の適度な監視環境と生活音があるリビングは、集中して勉強する場所としてぴったりだというわけです。

さて、「外勉」であれば、その選ぶ場所にもよりますが、スマホ以外の誘惑は少なく、衆人環視を意識できることから、自宅に比べ勉強に集中しやすく、効率を高められるそうです。また、自分の家の机の周りには漫画やテレビなど誘惑物がたくさんあり、また乱雑だと集中力が低下する影響も考えられますが、すっきりしたきれいなテーブルならば、気分良く勉強に取り組むことができるのか…。勉強を始めようと思ったら、机のまわりの乱雑さが気になってまずは掃除。気がついたら随分時間が経っていた…という話もよく耳にします。

「友達に教えてもらうために」「友達といっしょに勉強するために」「怠けそうな心に喝を入れるために」、ちょっと環境を変え気分転換を図って「外勉」を選ぶ子ども達がいるようです。友達と一緒に、飲み物を準備して、テーブルについて、教科書やノートを開くと、家でも学校でもない、ちょっといつもと違った雰囲気勉強をスタートできます。

ただし、それは勉強に適した環境であるならば…という条件がつきます。勉強するためのだけのスペースでないならば、「勉強しているから静かにして！」というわけにはいきません。家にはない誘惑もある可能性があります。効率よく勉強できるかどうかは、本人の意思と環境次第。

空いた時間があるので、時間を有効に使うために…タイパ（タイムパフォーマンス）をよくするために「外勉」はありでしょうが、「わざわざ出かけて行って」となると、それだけで時間ロス。勉強場所に迷って、席を選んで、さて何の勉強をしようかな…となるとさらに時間がかかって…本来の目的を果たせない可能性もあります。気分転換に「外勉」をするのも効果がある場合もあれば、逆の場合もあります。

お子さんはどういったところで勉強をしていますか？ちょっと確認してみるのもいいかもしれませんね。



子ども達が楽しみにしている夏休み。4月から始まった新学年。気持ち新たにスタートした生活は、いろいろな変化への対応で心身共にちょっと疲れ気味。そこにやってくるのが夏休み。一月以上の休みは、自分が自由に使える時間が増えて、普段出来ないことが思う存分できて…と子ども達の期待は膨らみます。



さて、その夏休みについてですが、貧困問題に取り組む認定NPO法人「キッズドア」が6月26日、小中学生のいる困窮世帯約1400世帯に夏休みに関するアンケートを行いました。その結果、夏休みは「なくて良い」が13%、「短い方がよい」が47%で、計60%の世帯が子どもの夏休みを負担に感じ、短縮や廃止を希望しているという結果を発表しました。困窮世帯ですから、全世帯を対象にした60%ではありませんが、夏休みに対する子どもと保護者の思いは大きな隔たりがあるようです。

子どもが家にいると生活	
-------------	--

理由	割合 (%)
子どもが家にいると生活費がかかる	78
給食がなく、昼食準備に手間や時間がかかる	76
夏休みに特別な経験をさせる経済的な余裕がない	74
給食がなく、必要な栄養を摂れない	68

ちえなみき店内では、多くの高校生が試験前のためか、2F読書スペースで勉強をしている様子が見られた。オルパーク2Fでも数人の高校生が勉強していた。アルプラザのフードスペースやメガドンキのフードコートでも、数人の高校生が勉強する様子が見られた。

敦賀駅周辺施設で、勉強をしている女子高校生を多く見かけました。この子達は迷惑行為等問題になることをしているわけではないが、20時を過ぎていたので、この後帰宅するとなると夜道は危険ではないかと心配しました。新幹線も開業し、県外や外国の人も多くなっているので、いろいろな意味で危険度が増しているような気がします。その後、近くの商業施設の駐車場に若い大人（男）が数人いましたが、その状態に学生がいたら危険ではないかと心配しました。



ドンキホーテのゲームセンターで、ゲーム機の下を小学校高学年くらいの男児3人が覗き込んでいたので、「どうしたの？」と声かけ。「100円を落としてしまってとれないので…」というので、「店員さんに言って協力してもらったら」というと「100円なんていいです。いいです。」と3人ともその場を去ってしまった。1円足りなくても買い物できないのに、今どきの小学生の金銭感覚はどうなっているのかなあと考えさせられた一場面だった。



→日誌に記載されている子ども達の気になる行動の中で、学校がその事実を知っておいた方がよいと判断した場合、その情報を提供しています。また、学校が特定されている場合は、その学校に直接連絡をしています。連絡を受けた学校は、教員が直接その店舗に行き状況を確認、学校独自の巡視を定期的に行うなどの対策をとっています。また、校内でその事実をもとに全体に指導もします。ただ、該当児童生徒が特定されていない場合は直接の指導はできません。店として毅然とした態度で直接指導するのが、その子達に最も効果的な指導ではないかと思います。その上で、直接学校に「こういう子がいたので、こうした指導をしました」と連絡すると、学校もその指導の支援をしやすいように思います。